

国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター ニュースレター
ラagoon

Lagoon

2023. 10
No.20

枝状サンゴと葉状サンゴ（撮影日：2023.6 場所：石垣島南側）

はじめに

昨年さくねんから少しずつ観光かんこうで来島らいとうされる方が増ふえてきて、当センターとうせんたーに修学旅行しゅうがくりょこうの学生さんがくせいなどが施設しせつけんがくに見学けんがくに来られる機会きかいが増ふえてきました。

2022年なつの夏やえやまは八重山たいふうへの台風たいふうの到来とうらいが遅おそく、海水温かいすいおんがたか高い日ひが続つづきましたが、今年ことしは台風たいふうがよく接近せつきんします。人ひとにとっては計画変けいかくへん更こうなどの影響えいきょうを与あたえる台風たいふうですが、サンゴにとっではどうでしょう。昨年さくねんの夏なつに高水温こうすいおんの影響えいきょうで白化はっかしたサンゴのその後ごの様子ようすも引き続きモニタリング調査ちようさしています。

今回こんかいのニュースレターでは今年ことし度前半どぜんはんのサンゴセンターでの取りと組みくみについてご紹介しょうかいします。

のぞいてみよう！サンゴ礁の世界

～ サンゴの手はいくつ？ ～



サンゴちかに近づちかいてみると、花はながたくさん集あつまっているように見みえます。実はこれがサンゴの本体ほんたいです。花びらはなびらのような部分ぶぶんがサンゴの手てです。サンゴはイソギンチャクいそぎんちゃくやクラゲくらげの仲間なかまですが、この触手しゆくしゆと呼ばれる手てを使つかってえさをつかまえます。

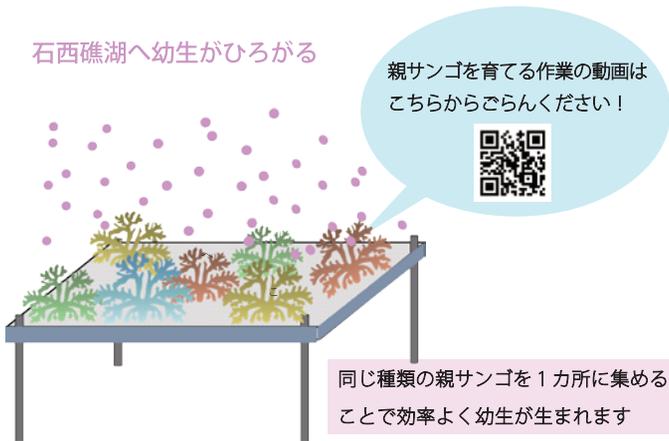
上うへに並ならんだ写真しやしんのサンゴの手ての数かずをかぞえてみましょう。少しせつわかりづららいかもしれませんが、すべてすべて 12本ほんです。浅い海あさうみにすむ種類しゆるいのサンゴの手ての数かずは6の倍数ばいすうのものが多おほいです。6本ほん、12本ほん、18本ほんなどがあります。また、サンゴの手てがよく見よられるのは、夜よるの時間帯じかんたいです。昼間ひるまでも手てを広ひろげているサンゴも多おほくは、夜よるの間あいだに手てを広ひろげてえさを待まちちます。

サンゴセンターの取り組み ～サンゴを増やしてサンゴ礁をまもるために～

サンゴ群集修復事業4年目の成果

一育成中のサンゴの成長はどれくらい？

2020年に開始した「サンゴ群集修復事業」が4年目に入りました。石西礁湖の中の7海域に幼生供給拠点（図1）を作るため、2021年にサンゴの育成試験をはじめてから約2年が経ち、サンゴはどのような状態になっているのでしょうか？



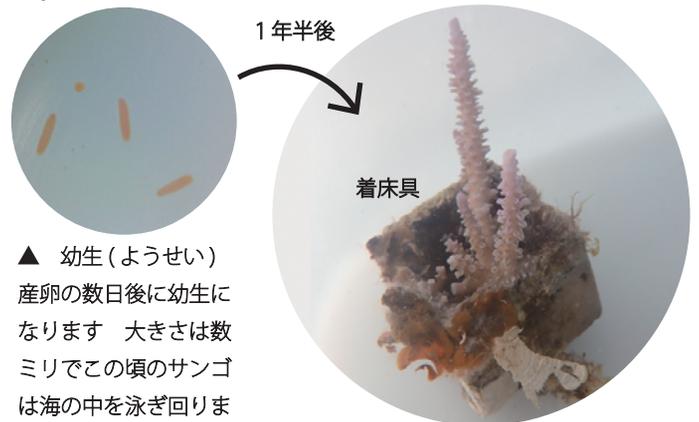
▲ 図1. 幼生供給拠点のイメージ
現在は7カ所の幼生供給拠点で親サンゴを育てています

2021年4月に生まれたウスエダミドリイシというサンゴの赤ちゃんは、2023年9月には大きいもので直径10cmほどになりました（図2）。といっても、これらはほんの一握り。自然界では厳しい競争があり、生き残ることができたのは全体の10%～20%ほどです。一方で、2022年の夏は台風があまり来ず高水温となったため、白化が心配されましたが、1～2歳のサンゴの子どもたちは白化に強いいため、無事に乗り切ってくれました。



▲ 図2. 幼生供給拠点で育成中のサンゴ（ウスエダミドリイシ）

2022～2023年には、ヤングミドリイシという枝状のサンゴ（図3）の幼生を収集して、毎年7000個の幼生が付着した着床具を3～5海域の幼生供給拠点に設置しました。2022年4月に生まれたサンゴは1年後（2023年6月）に20%～30%ほどが生き残っています。数年後に立派な親サンゴになり、次の世代のサンゴを生んでくれることを願っています。



▲ 幼生（ようせい）
産卵の数日後に幼生になります 大きさは数ミリでこの頃のサンゴは海の中を泳ぎ回ります

▲ 図3. 2022年生まれの子ヤングミドリイシ
現在はここまで成長しています

一幼生供給拠点の見学会



▲ 図4. 見学会の様子
船上で説明を聞いたあとにスノーケリングで現地を確認しました



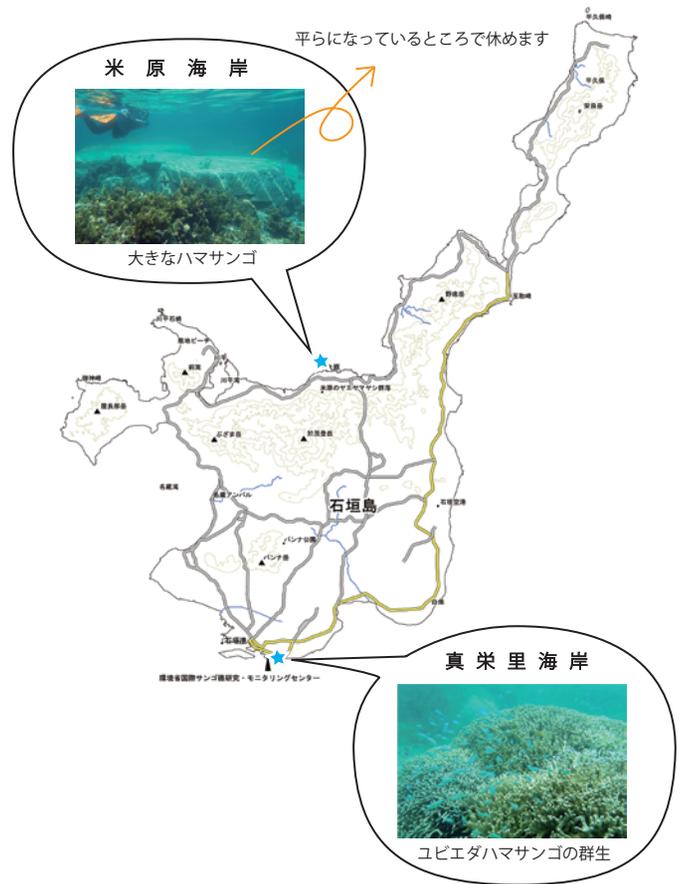
9月22日に第32回石西礁湖自然再生協議会が開催され、その翌日に自然再生協議会委員有志が集めスノーケリングによる幼生供給拠点の見学会を行いました（図4）。当日は天候に恵まれ、幼生供給拠点と育成中のサンゴを見学することができました。サンゴの保全は簡単ではありませんが、少しでもサンゴの回復につながるよう取り組みを続けていきます。

サンゴセンターの普及啓発活動

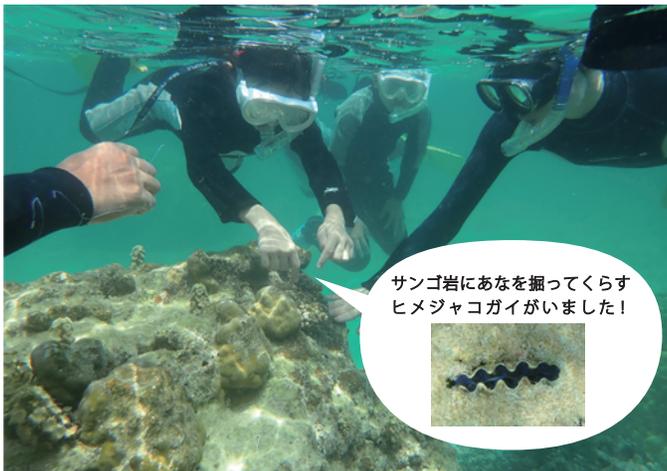
海の自然教室を開催しました！

地元の方が身近な海に親しんでいただけるように、サンゴセンターでは毎年夏に2回のスノーケリング観察会を開催しています。7月30日にサンゴセンター近くの真栄里海岸で、9月9日は国立公園である米原海岸で行いました。同じ石垣島の海岸でもそれぞれ海の中の様子が違います。

海の自然教室ではスノーケリングに慣れていない方でも安心して楽しめるように基礎的な練習からはじめます。海に慣れたら、観察会に出発！エコツアーふくみみさんのガイドによる自然解説とサンゴセンターのスタッフも安全管理のためにサポートをします。海に入る前に、それぞれの海の特徴に合わせたレクチャーを行い、どんなところに注目して観察をするのかわかるようにプログラムを計画しています。



▲ 浅い場所でスノーケルを使って息を吸う練習



▲ 生きもの発見！
よく観察してみるとサンゴ岩で様々な生きものが見つかります

今回の観察会では天気に恵まれ、参加者のみなさんはスノーケリングでの観察を楽しめたようです。真栄里海岸ではユビエダハマサンゴの群生にたくさんの魚が群れる様子を観察することができました。米原海岸では大きなハマサンゴの上で休みながら、ヒトデやナマコ、カクレクマノミなど様々な生きものに会うことができました。

また来年も7月～10月の期間の中で2回開催する予定です。開催日が近くなりましたらお知らせをしますが、ご興味のある方はサンゴセンターまで事前にお問い合わせください。



▲ サンゴの仲間のクサビライシを観察

▼ イソギンチャクにすむカクレクマノミ



サンゴセンターの^{りよう}利用について

2023 年^{ねんぜんはん}前半^{じょうきょう}の利用状況

【出前授業・研修会】

石垣市内の小中学校

県外の中学校、高等学校、大学

▶内容：外来種、希少種、サンゴ、漂着ごみ
国立公園・レンジャーの仕事など

【施設見学】

石垣市内の小学校、石垣市内の学習教室

【職場体験】

石垣市内の中学生 2 名 竹富町内の中学生 1 名
石垣市内の小学生 2 名

【インターン研修】

【取材協力】

大学生 1 名 テレビ、書籍等

【その他】

キッズアート大作戦 「漂着ごみの講話」

▷一般財団法人八重山青年会議所主催

サイエンス × BOSAI フェア 2023 in 石垣市

▷石垣市、石垣市教育委員会、石垣島地方気象台共催



施設見学 ▶

サンゴセンター内にはサンゴの骨格標本や野生動物のはく製があり、自由に見学ができます。各学校からの要望に合わせ、施設内の案内や講話を行うこともあります。



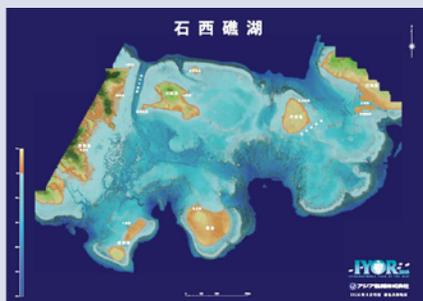
◀ 職場体験

米原利用ルールの周知活動に地元の方と一緒に参加していただきました。3 日間の職場体験を通してサンゴセンターでの様々な取り組みについて知る機会となればうれしいです。

◀ 研修会

修学旅行生の研修を行いました。なぜサンゴの保全活動を行うのか、持続可能な観光のためには何が必要かなど多くの質問がありました。

ニュースレターの^{なまえ}名前「Lagoon」とは？



▲ 日本で1番大きなLagoonは「石西礁湖」

Lagoon とはサンゴ礁に囲まれた浅い海域のことを指します。サンゴ礁のおかげで外洋からの波がおさえられ湖のようにおだやかなので、日本語では「礁湖」と呼びます。

石垣島と西表島の間には日本で1番大きなLagoonがあります。かつては多くのサンゴがすむ素晴らしい海でしたが、オニヒトデや高水温などによる影響でサンゴが減少しており、サンゴセンターではサンゴの保全活動を行っています。

発行元：環境省 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター

環境省国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターはサンゴ礁保全や環境保全についての取り組みをされる方はもちろん、どなたでも見学いただけます。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

▶ <http://kyushu.env.go.jp/okinawa/coremoc/index.html>

ご利用に際しては事前のお申し込みが必要な場合もありますので、下記までご連絡ください。

開館時間 8:30 ~ 17:15
休館日 土曜・日曜・祝日
利用料 無 料

〒907-0011 沖縄県石垣市八島町 2-27
Tel: 0980-82-4768 Fax: 0980-82-0279
Email: coremoc@sirius.ocn.ne.jp

Website

